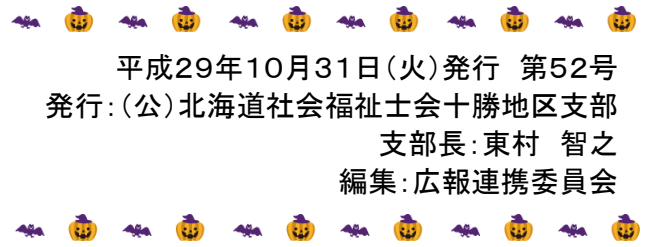


# CSWにゆーす TOKACHI



## ☆ 北海道社会福祉士会 新理事紹介 ☆

平成29年6月10日(土)に開催された、北海道社会福祉士会第19回定時総会にて、十勝からは3名の新理事が選出され、清野 光彦さんが北海道社会福祉士会会長に就任されました。

そこで、今号のにゆーすでは、十勝の新理事3名の紹介と3名の皆様のコメントを紹介します。なお、理事の皆様にはこちらから質問項目を用意し、それに答えてもらう形にしています。3人3様のお人柄がコメントからもうかがえます。

北海道社会福祉士会の組織体制や組織図については、北海道社会福祉士会のホームページに掲載されていますので、そちらもぜひチェックしてみてください。

質問:①氏名 ②年齢 ③北海道の担当委員会 ④勤務先(主な業務) ⑤血液型 ⑥趣味・特技 ⑦自分を動物にたとえると?その理由は? ⑧自分の性格を漢字一文字で表してください ⑨十勝地区支部会員の皆様へ



### ① 清野 光彦(せいの みつひこ)

② 58歳 ③ 生涯研修委員会、生活困難者支援委員会

④ NPO法人地域福祉支援センターちいさな手

福祉士分類カテゴリー:独立型

ケアマネ、CSW(コミュニティソーシャルワーカー)

⑤ A型

⑥ 趣味でも特技でもありませんが、畑をつくることとたまに走るくらいかな。動物をお世話することも好きです。今は3月に犬を亡くしたので緑亀をお世話しています。20年以上生きています。

⑦ チンパンジー。自分でも似ていると思っています。

⑧ 創

⑨ 道は自分で切り開け

### ① 田巻 憲史(たまき のりふみ)

② 43歳 ③ 生涯研修委員会

④ 帯広協会病院 医療ソーシャルワーカー

⑤ A型

⑥ 趣味:本屋めぐり(意味もなく)、電気屋めぐり(特にデジタル製品好き)、文房具屋めぐり(万年筆が好き)

特技:とりあえず何でも引き受けること

⑦ ドラえもん(風貌が..?)。家族に「動物にたとえたら何だと思う?と聞いたところ、「トド!」と...。これも風貌か...

⑧ 理(理性の「理」と言いたいところですが、理屈っぽい性格の「理」かな)

⑨ 4期目の理事をさせていただくことになりました。本業も20年ほどになりましたが、未だわからないことが多数です。そんな中でも自分の中で大事にしていることは、すべてのことを断らないこと、周りに巻き込まれることと巻き込むこと、与えられたことに喜びを感じ、自分のできることを精一杯すること、小さいことに気を遣うこと、などです。社会福祉士が誰かわからない、どこにいるか見えないとよく言われますね。社会福祉士として地域から求められるよう、地区支部の中で自分のできる小さなことから続けて行きたいと思えます。皆さん一緒に頑張らしましょう!

① 山口 潤(やまぐち じゅん)

② 44歳 ③ 災害対策委員会

④ デイサービスの介護業務全般、相談業務全般、事務業務、運営全般

⑤ A型

⑥ 嫁が趣味！(笑)結婚して23年ですが、まだまだ片思い中！嫁を喜ばせる為にアチコチ調べて2人でお出掛けしています。スポーツ観戦！プロレス、バスケ、サッカー、野球等1人でもバンバン札幌にも行きますね。スポーツ全般好き！最近夏はロードバイク、冬はスノーボードですね。

⑦ 猿。子どもの頃「サル鉄(うんてい)」が得意で、サルのようなスピードでした。今はゴリラマンが入ってきて、水戸黄門の飛猿に似ているって…嬉しくもないような…。

⑧ 「楽」かな…。楽しい事大好きです。利用者の方も「楽しい」って言うてくれる為に頑張れます！本当に皆が楽しく笑っていられると良いですもんね！

⑨ 学べる喜びがある会だと思っています。知らない事が多いだけに、いつも会員の誰かの意見に「なるほど～」と感心しています！福祉専門職として自分を成長させてもらえる会に携わる事に、大きな責任も感じています。有資格者の多くは、実は「特養等の施設職員」という事を知りました。高齢以外の分野は自分の専門外ではなく、是非、皆さんも多くの研修に参加しながら、様々な分野の知識を深めていきましょう！！



☆ 活動報告 ☆



平成29年5月20日(土)  
支部学習会、全体会、ウエルカムパーティーを開催致しました。

学習会では、今年度の北海道の理事に選出された清野(光)会員、山口(潤)会員より、新理事からの提言と題して自身の活動や北海道社会福祉士会理事としての抱負などについてお話いただきました。また、全体会では、昨年度の活動を振り返りつつ、今年度の活動について各委員会担当の四役から報告しています。ウエルカムパーティーには、30名弱の出席があり、普段なかなか顔を合わせる事のない会員同士や新会員との交流など楽しい時間になりました。



平成29年7月27日(木)  
『罪に問われた高齢、障がい者に対する支援に関する研修会』を開催致しました。

帯広刑務所畑中社会福祉士、帯広生活支援センター三上所長、帯広自立相談支援センターふらっと八重樫センター長より、各機関の取り組みについて事例も交えてお話いただきました。罪を犯した高齢者や障がいがある受刑者の出所後の再犯防止に向けた取り組みや生活支援に、ソーシャルワーカーが関る意義や重要性などについて学びを深められた研修会でした。

平成29年8月20日(日)  
帯広市社会福祉協議会の『社協フェスタ2017』のボランティアに参加しました。



昨年は焼きそばコーナーでしたが、今年はそば・うどんコーナーを社会福祉協議会の評議員の方々で担当しました。息の合ったチームプレーでそばもうどんもお昼頃には完売しました。

平成29年10月14日(土)  
北海道薬剤師会、訪問看護師会との合同研修会を開催致しました。テーマは、「今、改めて地域包括ケアを問う



てみる～佐久総合病院と地域のつながりから学ぶ～」と題し、長野県佐久総合病院の診療部長北澤先生よりご講演いただきました。地域包括ケア実践のためには住民参加→住民主体→本人主体の地域づくりが大切であり、地域住民全員が当たり前のことを当たり前に行っていくことが地域包括ケアの実践につながっていくことを学ぶことができました。どこで死ぬかではなく、どう死ぬか。そして、専門職はそれをどう支えて行けるのかなど、とても考えさせられる研修会になりました。

基礎研修Ⅰ～Ⅲ、社会福祉士受験生応援企画も順調に進行しています。

職場や身近な方で社会福祉士の受験を考えている方や受験生同士仲間がほしいという方が身近にいましたら、ぜひお声掛けください(十勝地区支部お問合せメール:tokachicsw@freeml.com)

特集！

# ～道東のつどい～

毎年、夏～初秋にかけて開催される道東3地区支部合同研修会、通称『道東のつどい』。今や道東3地区支部の恒例行事となっている道東のつどいですが、その歴史や成り立ちについてご存知の方はどのくらいいらっしゃるでしょうか？

歴史を紐解いてゆくと、意外に奥が深い道東のつどい。にゅーす52号では、そんな道東のつどいについて特集したいと思います。

## 道東のつどいはいつ頃から始まったの？

平成7年頃から釧路、帯広、網走で開催されていました。

現在の釧根、オホーツク、十勝地区支部は元々は道東地区支部という一つの支部でした。道東地区支部は平成13年10月、各地域で組織し活動してきた釧根、十勝、オホーツクの各社会福祉士会が結集する形で設立されました。道東地区支部になる前は、各地域で独自の活動をしており、その時から各地域の社会福祉士の交流や研鑽のために道東のつどいが始まりました。

ちなみに、道東地区支部では、3社会福祉士会は連絡会と位置づけられていましたが、平成17年に地域の広域性の問題や連絡会業務の合理化などを目的として釧根、十勝、オホーツク地区支部として独立し、現在の地区支部体制になっています。

## 毎年どんな研修会を開催しているの？



平成28年度  
津別町出てこいランド  
平成28年9月3日～4日



平成29年度  
阿寒町丹頂の里赤いベレー  
平成29年9月2日～3日

毎年、3地区支部が持ち回りで趣向をこらした研修会、懇親会、宿泊を企画しています。昨年はオホーツク地区支部が主幹で道東地区支部から3地区支部として独立した時の支部長3名による講演会、今年、釧根地区支部が主幹で、一般社団法人釧路社会的企業創造協議会事務局長の相原真樹さんによる講演会、各地区支部からの実践報告と盛り沢山で学びが多い内容でした。

また、つどいで一番盛り上がるのはやはり懇親会です。普段なかなかお会いすることのない他地区支部の会員とも、同じテーブルを囲むと一瞬で仲良くなってしまうこともつどいの持っている魅力のせいなのか...宴は夜中まで続き大いに盛り上がります。

来年は当地区支部が主幹になります。まだ参加されたことのない方も、最近参加してないわという方も来年はぜひ、道東のつどいに参加してみませんか？

もともと同じ地区支部だった私たち、四国の4県が全部入ってしまう広大な北の大地で「社会福祉士」というキーワードのもと、集い、語らい、学び、呑み明かす「つどい」。これに出なきゃCSWじゃ無いつしょ！だって、CSWの本髄は「つながり」じゃないですか。どんなに優秀でも、一人で出来る事なんか何も無いつしょ。最近の名寄市立大学3年生の実習生も必須の実習プログラムの一環として参加。福祉に熱い先輩たちからすんごく刺激を受けている。実は私たちこそ、この若い感性からビビッ！と来ているんだけどね。続けましょう、「つどい」。

つどいの達人：  
釧根地区支部  
小野 信一さん



## ☆ 研修案内 ☆

十勝地区支部の2大研修会と言えば、『社会福祉セミナー』と『権利擁護セミナー』。今年は、社会福祉セミナーが11月25日(土)、権利擁護セミナーが12月2日(土)と、開催日がなんと1週間違いです(研修会の日時や詳細は同封の各研修会の案内をご確認ください)。

社会福祉セミナーのキーワードは「地域づくり」、権利擁護セミナーは「ハンセン病の歴史から人権擁護を考える」。そこで、今号では、各セミナーの担当副支部長よりセミナーにかける熱い思いを語ってもらいました。これを読んで出席すればまた違った視点で研修会に参加することができるかも...!?

# 社会福祉セミナー 2017



# 権利擁護セミナー 2017

私たち社会福祉士が仕事をする中で「地域包括ケア」「医療介護連携」「地域共生」等々のキーワードが次々に現れます。こういったキーワードについて、出来ている・出来ていないという話が出ることがありますが、実際このキーワードが出来ているとはどのような状態なのでしょう？実践現場では、実態がない見えないキーワードの評価に追われ社会福祉士は何をするべきか……が見えなくなっている現状がある様に思います。

社会福祉士として、地域住民として、当事者として、様々な立場で地域と関わる中で、特別な実践が「地域包括ケア」なのではなく日々の暮らしを継続するための住民同士のつながりが、その地域の地域包括ケアなのではないでしょうか？

今年度の社会福祉セミナーは、「地域づくり」をテーマに基調講演、実践報告、意見交換を通じ、地域住民を主体としてそれぞれの地域で子どもから高齢者まで、すべての住民が心地よく暮らせる地域について考える機会となればと考えています。(生涯研修委員会 寺本 圭佑)

みなさん！ハンセン病の歴史を知っていますか？

今年度の権利擁護セミナーは、国立ハンセン病資料館から講師をお招きして、ハンセン病の歴史を学び、人権擁護について考えます。

昨年、ハンセン病患者の強制隔離を定めた「らい予防法」の廃止から20年になるのを前に、毎日新聞が療養所の入所者と退所者を対象にアンケートを実施しました。法廃止後の周囲の状況について、入所者、退所者とも過半数が「ほとんど変わらない」と回答しました。治る病気であるにもかかわらず全体の77%が「病気への差別や偏見がいまだにある」と回答しており、社会の理解が十分に得られていないことがうかがえる結果となっています。

我々社会福祉士は、倫理綱領にもあるとおり人権を守る事が大きな役割の一つです。今回は直接国立ハンセン病資料館の方から話を伺い、歴史や現状を学び人権擁護について考えたいと思います。さらに、国立ハンセン病資料館夏季セミナーに参加した会員からの報告を通して、権利擁護について学びを深め、社会の理解につなげて行きましょう。(権利擁護委員会 石川 尚樹)



セミナー後は懇親会も予定されています！  
ぜひ、奮ってご参加ください！！(石川・寺本)



### 【会員向けアンケート調査への協力お願い】

企画調査委員会では、会員の皆様の十勝地区支部へのニーズや今後の会務運営にあたり、さまざまなご意見をいただきたく、会員ニーズ調査を実施致します。

同封のアンケート用紙にご記入の上、FAXまたはメールにてご返送いただければ幸いです。お忙しい中、大変恐縮ではございますが、何卒お願い申し上げます。

(FAX:0155-37-9110 E-mail:tokachicsw@freeml.com)